

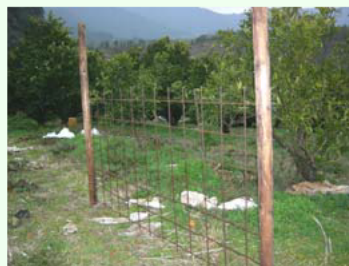
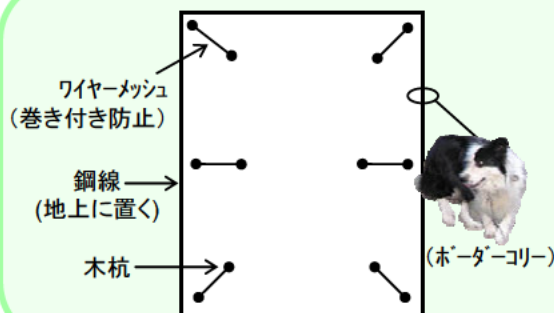
サルの果実食害防止対策

イヌを使ったサル被害防止方法

サルはイヌに対して慣れ等を生じにくいと考えられ、イヌを果樹園につなぎ止めることでサルの被害を防止する方法があります。しかし、イヌを園地の一边に往復運動ができるようにつないでも他の辺から進入されてしまいます。そこで、イヌが園地を周回できる獣害防止方法について検証しました。

イヌ周回装置

- ・イヌが園地を自由に周回できる装置（木杭、ワイヤーメッシュ、鋼線で作成）を設置し、イヌを果樹園に駐在させます。
- ・周回装置の資材費は、単位面積が大きくなるほど安価となり、50aでは約3,200円/10aとなりました（H19）。



杭とワイヤーメッシュの設置状況



鋼線とリングの連結状況

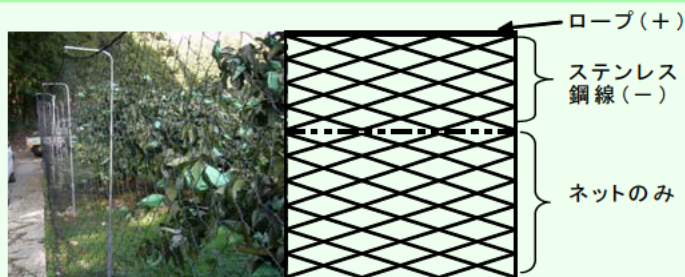
フェンス内へのイヌ放飼

- ・カンキツ園等の果樹園をワイヤーメッシュ（幅2m×高さ2m）で囲い、イヌをその中に入れます。イヌが逃げ出さず、自由に園内を巡回できるようにします。このフェンスにより、イノシシやシカの食害回避も同時に可能となります。

イヌを飼うことができない場合のサル被害防止方法

ネットと電気ショック併用柵

- ・ネットと電気ショックを併用したモンキーSHOCKを用いてサルの侵入を防ぎます。1m当り約900円の資材費が必要です。



【特長】

支柱を伝ってサルが登れないように、ロープ・ネットを支柱から約30cmの距離を離して張り、ロープをプラス電流、ステンレス鋼線入りネット部分にマイナス電流(アース)の意味を持たせ、同時に触れた場合、高電圧がサルに通電する。